

アブラナ科野菜のチョウ目害虫対策について

～アオムシ、ヨトウムシ、コナガ、ハイマダラノメイガなど～



アオムシやヨトウムシ、コナガ、ハイマダラノメイガなどチョウ目害虫は、夏播きのキャベツやハクサイなどアブラナ科野菜で、育苗中から本圃初～中期に発生します。高温で少雨の年には多発生する傾向がありますので注意が必要です。

これら害虫の防除対策として、育苗中に粒剤や灌注剤(表1)による防除を行うと2週間～1か月くらい防除効果が期待できます。その後は、表2を参考にして薬剤抵抗性害虫の出現を抑制するため、播種や定植時に処理した薬剤とは異なる系統(分類コード)の薬剤でローテーション防除を行ってください。

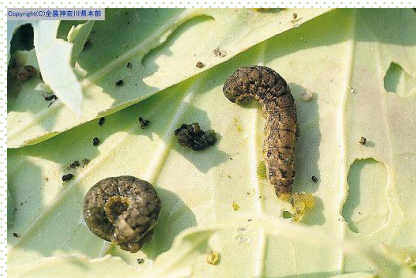


写真1 ヨトウムシ老齢幼虫



写真2 コナガ幼虫



写真3 ハイマダラノメイガ幼虫とキャベツの被害



(写真2、3 茨城県病害虫防除所)

育苗中

表1 アブラナ科野菜の播種時または育苗期後半～定植時に処理するチョウ目害虫の主な防除薬剤 (令和8年8月24日現在)

薬剤名	処理方法	キャベツ	ハクサイ	ブロッコリー	カリフラワー	ダイコン	分類
ジェイエース(オルトラン)粒剤	植穴処理、作条または株元散布	○	○	○		○	1B
スタークル顆粒水溶剤	セルトレイ等への薬液灌注	○		○			4A
ダントツ粒剤	散布、株元処理、植穴処理土壌混和など	○	○	○			4A
ベリマークSC	セルトレイ等への薬液灌注	○	○	○	○		28
ジュリボフロアブル	セルトレイ等への薬液灌注	○	○	○			28と4A
プレバソンフロアブル5	セルトレイ等への薬液灌注	○	○	○	○		28

注1) 各薬剤の対象害虫および処理法は、対象作物により異なります。使用基準をラベルで確認し、適切に処理してください。

注2) 表1と表2の分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

注3) プレバソンフロアブル5などのジアミド系薬剤(IRAC分類コード: 28表中)はハスモンヨトウやオオタバコガなどには高い防除効果がありますが、近年コナガに対する防除効果が低下している事例が確認されています。このため、特にコナガが問題になる地域では、分類コード28以外の薬剤でコナガを防除した後ローテーション防除を行います。

生育中

表2 アブラナ科野菜の生育中におけるチョウ目害虫の主な防除薬剤

(令和8年8月24日現在)

薬剤名	キャベツ	ハクサイ	ブロッコリー	カリフラワー	ダイコン	カブ	非結球アブラナ科葉菜類	分類
エルサン乳剤	○	○	○	○	○	○		1B
ジェイエース水溶剤・オルトラン水和剤	○	○		○				1B
アディオナ乳剤	○	○	○	○	○	○	○※	3A
ディアナSC	○	○	○	○	○	○	○※	5
アニキ乳剤	○	○	○	○	○	○	○	6
コテツフロアブル	○	○	○	○	○	○	○※	13
パダンSG水溶剤	○	○	○		○			14
リーフガード顆粒水和剤	○	○	○		○			14
アタブロン乳剤	○	○	○	○	○			15
ハチハチ乳剤	○	○	○		○	○		21A
トルネードエースDF	○	○	○		○			22A
アクセルフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	22B
モベントフロアブル	○	○	○		○			23
ベネビアOD	○	○	○		○			28
ヨーバルフロアブル	○	○	○		○		○※	28
グレーシア乳剤	○	○	○	○	○	○	○	30
プロフレアSC	○	○	○	○	○	○	○	30
ファインセーブフロアブル	○	○	○	○	○		○※	34

注) 各薬剤の作物登録を記載しました。非結球アブラナ科葉菜類の※は、適用が除外されている作物があるのでラベルで確認してください。

また、対象害虫や使用方法についてもラベルで確認し、適切に散布してください。

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用してください。

■ 宮農 News は JA 全農いばらき ホームページでもご覧になれます。